

# 第9期札幌市図書館協議会

## 第3回会議

### 議 事 録

日 時：2023年9月11日（月）午後2時開会  
場 所：中央図書館 3階 講堂

## 1. 開 会

●事務局（中村運営企画課長） 定刻となりましたので、ただ今から第9期札幌市図書館協議会第3回会議を開催いたします。

本日はお忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

私は事務局を担当いたします中央図書館運営企画課長の中村と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

本日は、ご出席というご連絡をいただいていた委員の皆様は8名になります。まだお見えになっていない方もいらっしゃいますが、定刻ということで始めさせていただきます。

事前に欠席する旨のご連絡をいただいておりますのは、塚田敏信委員と佐藤優子委員の2名となっております。

出席者数ですが、札幌市図書館条例施行規則第27条第2項の規定のとおり、委員の過半数を超えておりますので、会議が成立していることを報告させていただきます。

議事に先立ちまして、本日の資料について確認させていただきたいと思っております。既に送付させていただいております資料としまして、まず1点目に次第。それから、さっぽろ読書・図書館プラン2022の取組項目の進捗状況（令和4年度）、こちらが資料1-1、資料1-2で、資料の右肩に資料番号を振っているものが2つ、お手元に届いているかと思っております。それから、令和4年度札幌市の図書館の将来の在り方についての調査研究業務（要旨）、こちらが資料2-1となっております。それぞれの図書館の将来像と役割、こちらが資料2-2となっております。最後に令和4年度来館者アンケート集計結果、こちらが資料3となっております。その他、追加資料としまして、席上に座席表、札幌市の図書館2023、こちらは冊子になっているものをお配りさせていただいております。

お手元に資料が足りないという方いらっしゃいますか。

よろしいでしょうか。それでは議事録作成のために録音の必要がございますので、お手数ですが、ご発言の際にはマイクをご使用いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、中央図書館長の矢萩よりご挨拶を申し上げます。

●事務局（矢萩中央図書館長） 中央図書館長の矢萩でございます。本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

ようやく北海道らしい爽やかな天候になっておりました。

この秋に図書・情報館が開館5周年を迎えます。図書・情報館は「はたらくをらくにする」というコンセプトのもとに、主に働く世代をターゲットにして、従来のNDCによる図書分類ではなく、オリジナルのテーマを設定して図書を配架しているところでございます。

5年の間には、コロナ禍もございましたので、色々と社会の変化はありました。そういった社会の変化に対応したテーマの見直しをしていこうと今取り組んでいるところでござ

います。

9月の下旬から、2階の方を少し休館させていただきまして、その作業を進め、そして10月の6日に再オープンをする予定になっております。どうぞ再オープン後の図書・情報館も注目していただければ幸いです。

さて、今日の図書館協議会ですが、さっぽろ読書・図書館プラン2022の取組状況、それから来館者アンケートの結果を報告させていただきます。

コロナ禍が長く続きまして、それまで館内での読み聞かせ、講演会などの来館型・集客型のイベントを少し見合わせし、動画配信によってのみ実施していたというところもございます。

令和4年度につきましては、段階的にこれらの来館型の事業を再開しております。そしてそれに加えまして、動画配信を合わせたハイブリッド型での実施も行ってきたところでございます。

本日は多岐にわたる図書館プラン2022の事業の初年度の報告ということになります。まだまだ事業の取組状況として十分じゃない点ですとか、あるいは進捗管理についてこうしたら、というようなご意見もいただけるかと期待しております。

忌憚のないご意見を賜りまして、今年度以降の事業につなげていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

●事務局（中村運営企画課長） 続きまして、この4月以降、中央図書館におきまして、人事異動、機構改革がございました。事務局側の顔ぶれが変わりましたので、自己紹介をさせていただきますと思います。

●事務局（浅野調整担当部長） 浅野でございます。昨年度まで利用サービス課長や調整担当課長を務めさせていただきました。今年度からは札幌市役所のまちづくり政策局政策企画部プロジェクト担当部長と中央図書館の調整担当部長の方を兼務させていただいております。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局（中村運営企画課長） 改めまして、事務局を担当させていただいております、運営企画課長の中村と申します。よろしくお願いいたします。

●事務局（筒井調整担当課長） 4月に着任いたしました調整担当課長の筒井と申します。主に今日ご報告いたしますさっぽろ読書・図書館プランの進捗管理ですとか、あとは図書館情報システムの管理運営などを担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局（犬丸調整担当課長） 同じく調整担当課長の犬丸と申します。本日はよろしくお願いいたします。

●事務局（今堀利用サービス課長） 昨年10月から利用サービス課長をしております今堀と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。

●事務局（上田企画担当係長） 4月に着任いたしました企画担当係長の上田と申します。よろしくお願いいいたします。

●事務局（野村調整担当係長） 同じく4月に着任いたしました調整担当係長の野村と申します。よろしくお願いいいたします。

●事務局（中村運営企画課長） 以上で事務局の自己紹介を終了させていただきます。  
それでは議事に移りますが、本日の会議は2時間程度を予定しておりますので、よろしくお願いいいたします。

それでは議題に移らせていただきます。ここからの進行につきましては、新田会長、よろしくお願いいいたします。

## 2. 議 事

●新田会長 それでは、議事を進めてまいりたいと思います。

まずの議題ア「さっぽろ読書・図書館プラン2022」の推進状況、ということですので、事務局より説明をお願いします。

●事務局（上田企画担当係長） それでは座って説明させていただきます。

お手元の資料の1の1のほうを使って説明させていただきます。

私から、さっぽろ読書・図書館プラン2022の進捗状況について、令和4年度の取組結果を中心に説明いたします。

さっぽろ読書・図書館プラン2022は、図書館ビジョンと子どもの読書活動推進計画を統合する形で昨年5月に策定されました。市民の生涯にわたる学びや創造的な活動を支えるという基本理念を基に、4つの基本方針と32個の具体的施策を定め、それに基づく76個の具体的事業について、図書館や教育委員会だけでなく、保健福祉局、子ども未来局を含めて取り組んでおります。

それでは資料1の1の表の見方ですが、左側の水色のところに番号が振ってございますが、これが76個の具体的事業に対応しております。

また、新規と赤字で書いてあるもの、例えば7番の「読書や図書館の実務に触れる体験型イベントの実施」については、前の計画である図書館ビジョンや子ども読書活動推進計画には掲載されていなかった新規事業になります。

今回より設けました達成度については、最後のページに記載しておりますが、Sが目標を

大きく上回る成果を得た場合、Aが目標通りできた場合、Bが目標と比較して概ねできたというように、アルファベットで評価しています。

具体的事業については時間の都合もありますことから、重点施策を中心に何点かご紹介いたします。

右下にページ番号が振ってありますが、2ページ目をご覧ください。

8番の「電子書籍サービスの推進」は、「基本方針1 市民の読書環境の充実と情報活用の支援」の重点施策である「④新たな読書機会の創出」の中でも要の事業です。

令和4年の取組結果の丸の2つ目、モデル事業として、電子図書館のIDとパスワードを小中学校6校の児童・生徒に配付し、朝読書等で活用してもらいました。

現在、小中学校では、全児童生徒に一人一台情報端末が配付されています。今年度はそのモデル校の利用状況の分析を行い、今後の電子図書館の運営に役立てる予定です。

電子図書館はコロナ禍において、来館せずに読書を楽しめると注目されました。また、視覚に障がいのある方にとっても、読み上げ機能を用いて読書を楽しめるので、今後も取組

を推進してまいります。

次に6ページ目をご覧ください。6ページ目の38番、「読書習慣を身に付けるきっかけづくり」は、「基本方針2 子どもの読書環境の充実と読書活動の支援」の重点施策である「⑩子どもが読書に関心を持てる働きかけ」の中の事業の一つです。38番の①の中央図書館の地域支援係の令和4年の取組結果、丸の3つ目、読書ノートという読んだ本のタイトルや感想を記録することで、読書の楽しさを感じてもらう取組を進めておりますが、令和2年からは本を100冊読むごとに、記念品をもらえる「めざせ！こども館長」事業も行っており、子どもたちの読書習慣が身につくきっかけとなっております。

38番②のえほん図書館の取組では、小学校入学前の子どもと保護者を対象に、本の楽しさを体験してもらう図書館デビューのイベントを段階的に再開いたしました。

次に9ページ目をお開きください。下の方になりますが、62番の「地域の生涯学習の場としての地区図書館に関する調査・研究」は、今回の計画からの新規事業で「基本方針3 全ての市民の学びと情報の拠点としての環境整備」の重点施策である「⑤地域の生涯学習拠点としての役割の検討」の事業の1つです。

丸の1つ目、生涯学習センターとの連携で、ご近所先生企画講座を各図書館で実施いたしました。丸の2つ目と3つ目ですが、他都市の図書館の訪問調査を行ったほか、地域特性調査や市民アンケートを実施いたしました。この件については後ほど報告させていただきます。

次に10ページ目をお開きください。10ページ目の下の方になりますが、70番の「広告導入についての検討」は、「基本方針4 持続可能な図書館サービスを見据えた図書館運営」の重点施策である「⑧将来も継続できる図書館サービス」の中の事業の一つです。こちらについては、他都市の図書館への訪問調査でいくつか情報を得ましたが、その効果や必要

となる事務作業の多さなど、デメリットを検証するには情報が足りず、具体的な検討には至っておりません。そのため、達成度はBとしております。今年度は引き続き、他都市の取組事例などを含め、広告導入をはじめとする図書館が収入を得る取組について調査する予定です。

次に資料1-2の方をご覧ください。資料1-2の方ですが、こちらは地区図書館におけるさっぽろ読書・図書館プランの取組状況についてです。これまでは地区図書館から進捗状況の報告は求めておりませんでした。これからは地区図書館も独自に創意工夫してもらいたいということから、今回より報告してもらいました。

資料は館ごとに紙が分かれています。一枚めくって、東札幌図書館の取組をご覧ください。右上に赤字で館の名前が書いてございます。

東札幌図書館の取組、10番の「他施設へのアウトリーチに関する調査・研究」に関してです。東札幌図書館では、近隣に大型病院が多く立地していますが、入院されている方は図書館に来られません。そのような方へのアウトリーチとして、図書館では不要とした本を活用し、近隣の病院などに届けることを試行的に行いました。

また、14番「課題解決に役立つ棚作り」と、15番「医療・保健分野など特定分野の情報発信機能の強化」の取組についても、近くに病院が多く立地する地域特性から、医療に関する情報発信に力を入れ、がんに関する本の常設展示を行ったり、地域の福祉関連情報などを図書館で収集できるように近隣地域のパンフレットやチラシを配下したりしています。

次に4枚紙をめくっていただいて、山の手図書館のページをご覧ください。山の手図書館の取組の33番「乳幼児・保護者向け行事の実施」に関してです。山の手図書館では、企画提案型事業において、児童書のエリアに職員のDIYで大規模な改装を行いました。「こころ」と名付けられたコーナーでは小上がりになっていて、親子が読み聞かせしやすい空間になっており、子どもに良い本を選んであげたいという親のニーズに応えるため、親向けに絵本を選ぶための本棚も設置されています。

また、41番の「乳幼児向け図書の展示やブックリストの充実」の取組について、丸の2つ目ですが、職員のDIYで作られたもう1つのコーナー、「つなぐ」では、琴似中学校の図書委員会の生徒が協力して、自分が幼い頃に読んだ思い出のある本を子ども達に紹介するコーナーを作成しました。山の手図書館では、これらの取組の影響からか、全体的に家族での利用が増えたようです。また、中学生が読書への関心を高めるきっかけとなりました。これらプランの進捗状況の資料については、ホームページで公開を予定しております。

続きまして、資料2-1をご覧ください。A4のピンク色の資料になっております。

さっぽろ読書・図書館プラン2022に基づき、昨年度市民アンケートや各地区図書館への訪問調査などを行い、図書館の将来の在り方について調査、研究を行いました。今年2月の第2回会議で中間報告をさせていただきましたが、本日は最終報告という形で簡単にご報告させていただきます。

左側の方ですね。①地域特性調査では、地区図書館や市民活動団体などへの調査を行い

ました。考察のところの①ですが、各区に特色ある地域資源があり、各館で地域の資料収集を進めていますが、積極的な広報や市民活動に結びつけたサービスを今後進める必要があるということが明らかになりました。

資料の右側に行きまして、②の市民アンケート調査では、無作為で選ばれた3,000人を対象に郵送によるアンケートを実施し、844人から回答を得ました。

図書館の利用目的の項目では、全体の47.2%が図書館を利用しないという回答でした。利用している人の回答では、若い世代では学習目的が多く、高齢者では気分転換、時間潰しというものが多かったです。特に充実させてほしいサービスとしては、集中できる個人席、カフェスペース、Wi-Fi環境などが多かったです。

裏面をご覧ください。左上の③の他都市図書館の調査のところですが、左下の(2)図書館の新しい姿として、菱形で書いてあるところですけども、学びの場の提供、DXによる向上、地域を変える核となる、心地よい居場所、ユニバーサルデザイン、音のコントロール、会話を認める空間と静かな空間を分けることですけども、このようなことが明らかになりました。

右下をご覧ください。調査の結果、提案された札幌市の図書館の在り方が図で示されていますが、「生涯にわたり人の学びを支える」、「暮らしと仕事に役立つ」、「地域を良くする」、「もうひとつの居場所になる」がポイントとなります。それらを踏まえて、それぞれの図書館の将来像と役割をまとめましたのが資料2-2となります。

資料2-2、A4の横になっているものですけども、こちらの方をご覧ください。

資料2-2のまず真ん中下の図をご覧ください。中央図書館が中核となって、機能分館であるえほん図書館と図書・情報館が一部機能を補完している関係です。また、生涯学習センターとも、ご近所先生企画講座などで連携を継続して、市民の学びを支えます。

各区では、地区図書館が図書室や学校、図書館などと連携して、区における生涯学習、地域活動の拠点となります。人生100年時代の到来で、市民の生涯に渡る学びを支えるために図書館に期待されている役割は大きいですが、特に身近な場所にある地区図書館の機能強化が重要だと考えています。

ここからは資料の方はちょっとご用意しておりませんが、今年度は地区図書館の将来像について、持つべき機能と業務内容、またそれらを実現するための民間活力導入を含めた運営形態のあり方や、図書館が収入を得たり、かかる費用を減らしたりする取組について、他都市の事例について調査を行います。

以上となります。

●新田会長 ありがとうございます。資料の要点を説明していただきましたが、色々なご質問、ご意見等が各項目についてあろうかと思しますので、委員の皆さまからはご意見を出していただきたいと思います。

いかがでしょうか。じゃあ、ちょっと考えてみていただいている間に私の方から。資料

1-1ですね、これは図書館のもっとも基本的な機能である蔵書事業の充実ということですけれども、昨年度の資料を見てみますと、この札幌市の図書館の2023の7ページにあります、購入・寄贈等で受け入れたものよりも除籍の数の方が多くて、全体としては蔵書数が減ってるという状況があるわけですね。この除籍の12万点というのは、この規模の図書館としては、ちょっと多いという印象があるんですけども、これは何かこの年度に限った特別な理由がありますか。

もちろん、除籍というのは一定の基準に従ってやっていることだと思いますけれども。ちょっと蔵書数が減ってるっていうことは、少しどうかなということなんですが、何か特別な理由があったんでしょうか。

●事務局（今堀利用サービス課長） 利用サービス課長今堀からお答えします。特に特別な理由があったというわけではないんですが、資料の方がだいぶ古くなっていて、利用者に快適に使っていただく為に、古い本を整理していたところがございます。

●新田会長 古くなったから捨てるっていうのは、図書館の姿勢としてどうなんでしょうね、というのが基本的な質問の趣旨なんですけどね。古くなったものを、年度ごとに区切って機械的に捨てるとか、そういうことではないですよ。

●事務局（今堀利用サービス課長） そうですね。使われ方を見て使われなくなっているものを確認して除籍しております。

●新田会長 ただし、図書館の機能は、短期的に使われないからといって捨てていってしまうような発想では図書館の役割は果たせないのではないかと、というのが私の思うところですけども。それについてはどうですか。

●事務局（今堀利用サービス課長） 使われ方の記録というのは何年度か取っておりますので、短期的というわけではなく、しばらく使われていないということを確認しております。

●新田会長 いや、しばらくっていうのは、100年に一回使われる大事な本っていうのもあるんです。だから、そういうところの除籍の基準っていうのは、もちろん、明文化されたものはありますよね。ありますか。そこにはどう書いてますか。今ないのであれば、後でもいいんですけども、私としてはそのしばらく使われなくなったから捨てるというような姿勢は、ちょっとどうかと思います。図書館としては間違ってるんじゃないかと思いません。



●事務局（矢萩中央図書館長） 資料の重要性という観点で、鑑みるべきではないかというご指摘かと思えます。例えば、札幌に1つしかないですとか、あるいは国内でもこしかない、いくつしかないというようなものは、たとえその使用頻度が少なくても、残すべきだというふうに、私どももそのような考え方で整理しているところがございます。ただ、昨年度につきましては・・・。

●事務局（夕都木係長） 新琴似図書館がありますが、そこが大規模改修に入ったことにより、除籍がかなり例年よりは多いということが、この中からも見受けられると思えます。あとは図書館として居場所づくりという中で、場所が限られているので、データで持っているもの、道立図書館が持っているものとか。もちろん、中央図書館だけの一冊本というものは、軽々しく廃棄などはせずに、データで持っているもの、道立図書館さんが所蔵をしているもの、全て精査して、その中で少しでも居場所を作るために、データで持っているものについては、除籍とすることもございます。新しい本もどんどん入ってきます。情報館の雑誌とか、普通、皆さん買っていないような本も、やはり置きたいので、そういった形で精査しているところです。

●新田会長 おおよそわかりました。新琴似図書館っていうのは、蔵書というか、図書を置くスペースが改修によって減ったんですか。

●福田委員 新田委員長のおっしゃること、私も大学教員なのでわかるんですけども。すいません。北海学園大学の福田と申します。あの、新田委員長のお気持ち、よく私もわかるんです。本捨てるっていうことに、我々研究者はものすごく抵抗があるんですけども。公共図書館の場合は、例えばですね、児童書や絵本とか、汚れすぎるともう借りていかないですよ。親が神経質、特にコロナ以降、すごく衛生状況に過敏な親御さん多いと思うんですけども。汚い本は買い替えが必要だったらもう除籍した方がいいと思えます。あと、実用書は図書館の基準から言うと、もう5年経ったら使えないと。あと、古い時事用語辞典とか、調べもの資料は、新刊が出たらそれは基本はもう捨てて、なるべく新しい情報を提供できる環境を保った方がいいわけなので、おそらく中央図書館の除籍基準には書いてあると思うんですけども、やむを得ないと思うんですよ。資料費も減ってるんですよ。削減されて。だから、除籍が多くなって蔵書数が減るのは、もうこれは引き算で仕方ないのかなっていう感じがします。以上です。

●新田会長 ありがとうございます。公共図書館にはやむをえないところがあるっていうことはよくわかりました。そういうご説明を伺いたかったです。資料を捨てるというか、除籍にする際にはきちんと精査はしているということで、理解してよろしいわけですね。他にございますか。

●原田委員 原田です。よろしくお願ひいたします。先ほど、地区図書館の進捗状況の中で、東札幌図書館の取組で、非常にいいなと思ったのがありまして、そちらに触れたいんですけど、市民の情報収集や活動の支援の中で、常設展示と合わせて、8月に国立がん研究センター巡回展示、身近に癌を考えるというのを行ったっていうのがあるんですけども、図書館はリクエストで本を入れることも結構あるかと思ひますので、網羅しなければいけないという側面もありますから、仕方がないと思ひんですが、結構危うい見地の実用本が入ったりとかも現状してしまうと思ひますよね。特に私は地区図書館を結構あちこちいったんですけども、その地区図書館、地区図書館で棚に結構個性があつて、こういうジャンルが得意な図書館なんだなっていうのが見えてきたり、ひょっとしたら地域に住んでいらっしゃる方が寄贈している、その分野に熱心な方が寄贈してるとか、リクエストをたくさん出してるとこもあるのかなと思ひますけれども、ただそういった中でちょっと危うい棚だなるような品揃え、品揃えっていうのでいいんですかね、棚も見受けられたりするなどは思ってたんですけども、そういうところをこういったしっかりしたところの講演で、コロナ禍でフェイクニュースが溢れたりですとか、実際に出版される本っていうのは書籍になってしまうって、すごく信用度が高くなると思ひますけど、今現在の出版状況だと、ただひたすら出版点数を増やしていこうっていう方向なので、本になっているからといって信用されているものではないところを、こういったしっかりしたところの慣習で示していただけるっていうのはすごくいいと思ひましたし、ウェルネス分野の推進で今後保健福祉局との連携でこういうことをやっていくのもいいのかなと思ひたんですけど、そういう方向性などがあるのかどうかというのをちょっとお伺ひしたかったです。よろしくお願ひします。

●新田会長 はい、じゃあどちらから・・・。

●事務局（矢萩中央図書館長） ウェルネス分野の重要性というのは、やはり私どもも意識しております。東札幌のように、国立がん研究センターとの連携という取組、こういったものを他の地区館にも広めていきたいと思っておりますし、今現在の各区にある保健センターとの連携で、例えば食育や健康づくりというようなことで棚作り、それからパンフレットの配架、そういったことを取り組んでいるところでございます。こういった取組を、また外部の団体にも広めて、さらにしっかりとした情報を提供していくようにしたいと考えております。

●原田委員 ありがとうございます。もちろん、図書館が主導になって何か思想的なものですとか、なんかこう寄せていくっていうのはもちろんよくないと思ひますけれども、健康情報に関しては人の命がかかる分野ですので、気をつけて取り扱っていただけると、

今後もありがたいなと思います。ありがとうございました。

●新田会長 はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

●斎藤委員 斎藤です。今の東札幌図書館のところで、10番のところの取組の試行的な取組として、不要とした本を活用し、新たな読書機会を創出したというところですが、これは新田会長が先ほど言われた除籍した本を使ったという意味でしょうか。そしてそれが利用されたということは、どういうふうに知られたらというのをちょっと確認したいんですけれども。

●事務局（今堀利用サービス課長） 利用サービス課長の今堀です。東札幌にこの状況を聞き取ってきたんですけども、主に使われたのは、寄贈本のうち、図書館で所蔵しなくなったものを中心に活用していただいたと聞いております。その中で提供先の病院ですとその病院に適したようなもの、あるいは適さないものを除いてとか、選別してお渡しして、その施設の中で適切に管理されるということを確認して、提供したと聞いております。

●斎藤委員 寄贈本が病院の方で利用されたと聞いたということで、活用があったと理解したということですね。

●事務局（今堀利用サービス課長） はい。

●斎藤委員 ありがとうございます。

●新田会長 確認しますけど、先ほど原田委員の方から、各地区図書館にいろいろ個性があるような、蔵書個性に関してっていう話がありましたけれど、地区図書館の蔵書、収集は基本的には中央図書館は関わらない、個別に地区図書館がやってるっていうことでしょうか。

●事務局（今堀利用サービス課長） 図書の選定については個別にやっております。全体的には選書の委員会を設けて話し合うところですけども、個別の選定にあたっては各地区図書館でやっております。

●新田会長 資料費は限られてるっていうことを、図書館に限らず、そういう財政難はいろんなところであると思うんですけども、その中の1つの方策としては、札幌市のようにいくつの地区図書館があった時に、それぞれの地区図書館に方針として、中央図書館、札幌市の図書館の方針として、地区図書館に蔵書の役割分担を考えるというような方針も

あり得ると思うんです。そういったことについて今まで検討されたことはありますか。

●事務局（今堀利用サービス課長） 役割分担についてですが、その選書の委員会の中で中央図書館はこういうものを集めていきたいと思いますというような大雑把な方針が決められて、さらに細かいところで言うと、その地区図書館ごとに収集担当っていう、例えば岩波新書はこの地区図書館が担当します、ハヤカワのSFはこの地区図書館が担当します、というような細かな分担を決めているところもあります。

●新田会長 そういうのがなんていうんですか、地区図書館の特色みたいなものを通して、きちんと公表されてるといえるか、あるいは公表することによって、その地区図書館の特色をさらに強めていく、というようなことがあってもいいんじゃないかと思って、こういう発言をしています。つまり、今、どこでも、どこの図書館の本でも借りられる体制になっているわけですので、そういうようなことはしっかり宣伝していく、あるいはそういう方針のもとで収集していくということは、有効活用っていう観点では、非常に大事な1つのことではないかとは思っているものですから、今このようなことをお伺いした次第です。

●福田委員 北海学園大学の福田です。お伺いしたいことが1つあるのですけれども、地区センターと区民センターの資料購入費があまりに少ないので、私は最近読んだ新書などを私寄贈しました。知り合いの司書さんがいるところに。そうしたら、それは一旦清田図書館に取られるということで、そこに置いてほしいと思って寄贈した本の処理についても、寄贈したら何も文句は言えないし、蔵書とするかどうかは図書館側の判断に任せるっていうのはわかっています。けれども、様々な図書館で寄贈された本を、どこに収集して、そこからどうやってまた再配付するという点を教えていただきたいです。不要になった本を活用するとか、そういうのは別に私は問題ないと思います。さきほど8冊ほど寄附しましたけども、中央図書館は選書ではじくかどうか、それとも選書の権利が地区図書館にあるのか、区民センターや地区センターみたいな、なかなか本を買えないところにやるのかというのが、大雑把でいいですけど、その処理プロセスを教えてもらいたいです。ずっと疑問に思っていたのです。そのあたり。新書や文芸作品は地区センター図書館とか区民センター図書館とか予算の低いところにおいてももらいたいです、私としては。以上です。

●事務局（今堀利用サービス課長） 寄贈のプロセスについてなんですが、まず寄贈いただいたものはいただいた施設でほしいもの、ぜひ入れておきたいものかどうかというのを一旦判断します。そうでもないものをいただいた時に、あるいは他の図書館の方が持つと有効活用されるのではないと思われるようなものは、情報が共有されて、施設同士で直接これどうですか、という時もありますけど、そうでもないものは情報を集めて、これとこれ、いる館はありますか、というふうに内部で検討します。先ほどの蔵書の役割分担に

もちよつと関係するんですけども、地区センターとか区民センターの図書室では、なるべく親しみやすいもの、とっつきやすいものを中心にしているようにしています。なので、わかりやすいものはなるべくだったら図書室の方に蔵書される傾向にあります。

●新田会長 他にいかがでしょうか。

●佐藤委員 子ども未来局佐藤と申します。主に乳幼児期の絵本に触れる機会の創出という分野のあたりを担当、所管している部署になります。読み聞かせボランティアの件でいつかお聞きしたいのですが、ボランティアさんの育成等にも力を入れられているかと思えます。その後の活動の場所としてどのようなところがあるのか、ということをお聞きしたいと思いました。新規の事業で、ボランティア団体同士の連携というあたり、記載がありますが、個人で活動していらっしゃるボランティアさん、どの程度いらっしゃるのかというあたりと、その方たちの横のつながりは、どのように考えられているのか疑問に思ったので、お聞きしたい次第です。

子ども未来局の方でも、各子育てサロン等で読み聞かせをしてくださるボランティアさんたちがたくさんいらっしゃいます。活動の場所として、現状サロンだけの方もいらっしゃるの、いろいろな場がありますというご紹介につながれたらと考えます。また、ボランティア活動してくださる方たちというのは、比較的高齢の方も多いものですから、今、おじいちゃん、おばあちゃんが近くにいない中で子育てしている方たちにとっては、身近にそういう高齢の方たちと触れ合う機会にもなります。もし可能であれば、ボランティアさんに両方で活動できるというようなご紹介ができればありがたいと思って、ボランティアさんの活動の場についてお聞きしたいと思えます。

もう1点、山の手図書館の方で琴似中学校の学生さんたちの本の紹介をしたコーナーを設けたというところがすごく素晴らしいと思えました。今の若い方たちは、紙で本を読むという習慣よりも、どちらかというデジタル媒体で読む方たちが多いのかと思えて、そういうふうに自分の経験を次の小さい子たちにもつなげられたりすると、とてもいいと思って拝見しておりました。以上です。

●新田会長 最初の方のご質問に関してはどうなったんですか。

●事務局（大久保地域支援係長） 地域支援係の大久保です。まずボランティアの活動場所ですが、中央図書館であれば1階のこどもの森の中に童話の部屋という大体30人ぐらい入れる絨毯敷の部屋がありまして、そこでボランティアさん、子供向けには3団体登録されておりますが、それぞれ月1回ぐらいのペースで読み聞かせ等を行っております。読み聞かせについては、中央では個人で活動されている方はいないです。

●佐藤委員 えほん図書館も個人の方はいらっしゃらないでしょうか。

●事務局（筒井調整担当課長） えほん図書館を所管しています筒井と申します。えほん図書館も基本的には団体で、今（毎月）4団体ぐらいで活動してもらっていますね。コロナが終わって非常に人の集まりも良くなりましたし、土日に関しては大変多くの方に参加していただいています。あと、こちらで主導的にやってるわけではないですけど、定期的に3階の会議室をお貸しして、お話の会と、おそらくボランティアさんたちの横のつながりの団体さんたちが、こちらで会議を開いたりとかってというのは、中央図書館の場所を貸してやっていただいている。内容まではこちらも踏み込んでないので、ちょっと把握してないような形になります。

●原田委員 原田です。すみません。今に関連しまして、私この前、スポーツの関連の企画で朗読のワークショップに参加してきましたんですけども、その参加者の方々は個人で朗読をされていたりとか、語りをされていたりとかっていう方で、ちょっとお話させていただいたら、図書館で読み聞かせができないかっておっしゃってたんですよ。それで、えっ、もう明日にでも来てくださって私も思ったんですけど、その方は西区西野の在住で、私の豊平区緑小は美園なので、ちょっと遠いねってなってしまったんですよ。ボランティアが学校図書館の方ではどんどん減ってきている状況ですので、もしそういったところで、個人で活動されている方、ワークショップとか開かれてることもあるかと思うんですけども、それで実際に読み聞かせをしたいっていう方と、学校図書館で読み聞かせをしてくださる方が欲しいってところのマッチングをやっていただけたら大変ありがたいなと思いつつ、今お話を聞いておりました。ご検討よろしくお願ひいたします。

●新田会長 ご検討をよろしくということですか。よろしいですか。他にいかがでしょうか。今学校図書館の話が出ましたので、⑫ですね。「学校図書館の図書環境の充実」という目標があって、24以下のところに学校図書館との連携の事業が出ているんですけども、直接的には24ですけども、この記述を見ると、各学校に図書館予算を配分したということが書いてあるのですが、各学校の図書館予算というのは、中央図書館が握ってるんですか。

●事務局（筒井調整担当課長） こちらについては教育委員会生涯学習部の事業になりまして、こちらの方で予算なども管理しているということになります。図書館のお金ではないですね。

●新田会長 図書館に直接配分しているとか、そういうことではないということですよ。学校教育部が担当でしょうから、ここで申し上げてもなんですけど、各学校にすべての中

学校に学校司書を配置したとありますけれど、いわゆる1週間の勤務時間とか、非常に制限がかかっているわけで、ここに書いてあるような、事業との連携とか、そういうことが実際どのぐらいできているかというようなことに関しては、図書館として把握はしてるんですか。それとも、それはもう学校教育部の話だから把握もしてませんということでしょうか。つまり、学校から、どのように学校司書を利用して授業なんかを活用してますっていうことの報告を受けているんでしょうか、ということなんですけど。

●事務局（筒井調整担当課長） 図書館としては報告は受けていないです。ただ、各中学校に配置されました学校司書さんは、その学校に一人しかいないということで、大変苦勞されているということがありまして、昨年、これもモデル的な事業として、曙図書館の司書のほうで悩み事を聞き取って、各司書さんにどのようなことで困られてるのかっていうのを聞き取ったうえで、図書室における分類の方向のやり方っていうような講座を開くというようなことをやって、大変好評だったという取組はありました。その学校でどのような取組をさせていただいているかは、こちらの方に報告していただいているとはいいません。学校司書さんからの質問は、一応、利用サービス課の方で受け付けられるような体制にはなっております。

●新田会長 なかなか本当に、予算が限られてるということで、おそらく苦しいところはありますけどね。

他にいかがでしょうか。いろんな各種の項目がありますけれども。

●木村委員 遅くなりまして、大変失礼いたしました。伏見中学校の木村でございます。今、学校司書さんのことが出てきましたので、少しお話をさせていただきたいと思ったんですけれども、学校教育部と、それから図書館の方と所管は分かれてはおりますけれども、この数年間、協議会に所属させていただきながら、学校図書館がどういうふうに整備されてきているかということを実際に見てきています。まだ学校司書が設置されていない小学校さんは大変申し訳ないんですけど、やはり中学校では本当に活躍されています。だいたい週に5日間のうち4日間を来ていただいているんですけども、司書さんの活動がなければ、いろいろなことが進まないのではないかと思うぐらい、大変一生懸命やっただいていて、一番はやはり学校図書館の整備というところでお力添えをいただいています。コーナーづくりですとか、掲示ですとか、それから貸し出し業務や蔵書の整理、書架の整備など、さまざまなことをやっただいています。最近では利活用の面で、いろいろと学校司書さんが考えて子どもたちや先生方の手助けになるような取組も、少しずつ広がってきているとも思います。本校もいろんなイベントを司書さんと図書担当教員でやるようになってきておりまして、この進捗状況報告の中にトランクキットのことが出ていますけれども、この度やっとならぬとあたることができ、鮭のトランクキットを借りるということにな

っています。そのような形でいろいろな図書館さんと連携させていただくことがだいぶできてきたなと思っております。

それから、地区館の話も出ましたけれども、近い図書館ですとか、中央図書館も含めて様々な図書館が札幌にありますので、そういうところと連携してやれることが、この4、5年の間に随分進んだなあというふうに私は思っていますし、学校に来る案内も大変多くなりました。こんなことをします、こんなイベントをやりますというような。ですので、ここに書かれているようなことを本当に地道にやっていただいていると、いつも感謝しているところです。予算がない中で工夫してくださってるなということとはとても伝わっております。

それで最後に1点なんですけど、曙図書館さんの方で、経験が少ない学校司書さんの方に悩みを聞きながら、というようなことをやっていますということが載っていて、本当にありがたいと思ったんです。学校司書同士のネットワークはもちろんあるんですけども、その範囲の中だけではないところで、図書館の専門職の方からいろんなお力添えをいただけるというのはありがたいことですので、曙図書館だけではなく広がってくれるといいなあということを思っておりました。今後、その辺の予定がもしあればお聞かせいただけたらなと思っております。

●事務局（筒井調整担当課長） 昨年本当にやって好評になりましたし、大変感謝の声のあったのは事実なんですけど、やはりなかなか、再三出てくるお金の問題というのもございますし、やはり地区図書館はなかなか人数的にも厳しいということがあって、全ての図書館でこれを実施するとなると、なかなか厳しい部分はあるということですが、今後検討して参りたいというふうに考えております。

●新田会長 今のお話をいただいたところだと、この数年でだいぶ連携が進んできているということですので、少なくとも火は絶やさないと、できる限り図書館としてもサポート体制をきちんと継続していただきたいということだろうと思います。

他にいかがでしょうか。

●斎藤委員 斎藤です。先ほどの説明の後半の部分で、資料2-1か、資料2-2の辺りの説明の時に、収入が得られるようなことを検討していると言われてたような気がするんですよね。それは具体的にどんなこととか・・・私の聞き間違いでしょうか。その辺りいけません、確認したいんですけど。

●事務局（筒井調整担当課長） こちらは直接的にお金を今すぐに得られるかどうかはわからない部分もありますが、今回民間事業者に調査研究を委託することにしましたので、全国的な事例を集めるっていうことはできますので、そういったことで収入を得ているよ



うな図書館があるのか、また、今は複合化施設に図書館が導入されているっていうような事例が増えていて、図書館ではない部分を、学習スペース、仕事をするスペースとして安く貸すですとか、あとはここでも出てきますけど、カフェですとか、そういった民間の収益事業のある施設と一緒にやるですとか、あと直接お金の収入ではないんですけども、雑誌スポンサーというか、雑誌そのものを寄付していただくですとか、そういったいろんな民間企業と協力して、図書館のない資料費をどのように有効活用するかっていうような手法を考えたいという趣旨で、今回調査研究するというふうに考えております。

●新田会長 予算部局っていうか、財務系のところの立場からすれば、図書館として自立的に収入の道があるのであれば、それはその分削ってもいいとていう話に必ずなりますのでね。そこは非常に難しい問題だと思います。複合施設として、そういう一部収入の道があるようなところも、全国的にはあるかもしれないという話でしたけれども、それも結局、図書館の基本機能は何かという原点に立った上できちんと考えていくべき問題ですので、先ほどコストパフォーマンスの問題、事務的な処理の問題でちょっと難しいところもあるかもしれないという説明もあったんですけども、図書館の機能をほったらかしにしてというのはちょっと言い過ぎですけども、それであの図書館は自立しなさいみたいな言い方に対しては、抵抗していくのが図書館の立場として必要なことだろうと思いますけれども、どうでしょう館長。

●事務局（矢萩中央図書館長） 会長のおっしゃることは本当にごもつともでございますし、肝に銘じたいところでもあります。しかしながら、札幌市全体の予算が厳しい中で、何かしら創意工夫をしてお金を生み出すとかしない限りは、もう削られる一方というところでございます。主張すべきことは主張しながらも、図書館の機能を損なわない程度に、何らかの収入を模索と言いますか、そういったところも引き続き検討させていただきたいなというふうに思います。

●新田会長 1時間ほど時間経ちましたけれども、他に・・・はい。

●原田委員 先ほど中学校のお話を伺いして、非常に羨ましくなってしまったので、小学校の現状としてお伝えしたいところがあるなと思ったんですけども、先ほど学校司書の配置で全中学校96校に学校司書を開始したと。本当素晴らしいことで、そこで図書館との連携が生まれたのも素晴らしいことだと思います。それでその下に学校図書館ボランティアの派遣というのがありまして、ちょっとこれあんまり知らなかったんですけども、開放図書館が設置されていないところにボランティアが派遣された後のことで、開放図書館をやっている小学校とやっていない小学校で、読書環境の差がものすごいなどは感じておりましたので、こういった取組が素晴らしいなと思いました。ただ、ここを読む限りでは、

書架整備・環境整備・図書修理を読み聞かせ等となりまして、やはり開放司書がいるところというのは、継続的に学校図書館に入ること、図書館の重要な要素であるレファレンスが開放図書館では機能しておりまして、これは親御さんですとかが小学校の図書館ボランティアに入ってくると、どうしても読み聞かせに偏ってしまうところがあるかと思うんですよね。物語を知っているのはもちろん重要なんですけども、図書館がそういう読み物のある場所というイメージで終わると、札幌にはせっきく図書・情報館のような素晴らしい場所があるのに、その素晴らしさがなかなかピンとこないで育ってしまうかもしれないなと思っております。

部署が違うので、たぶんお答えはできないとは思いますが、札幌は昭和40年代の専業主婦の全盛期に、主婦を駆り出す前提で考案された開放図書館の札幌方式っていうのが、その時点では本当に素晴らしい取組で図書館が盛り上がったとは思いますが、例えば専業主婦が7割8割だった時代から、今はもうあの共働きが7割8割の時代ですので、時代が合わなくなって、人手不足で図書館行政から期待される活動っていうのが、今後難しくなっていくと思われまます。それで札幌市の小学校の学校司書の配置率っていうのが取り残されてしまっているはずなんですよね。全国から。今、全国平均が6割7割ぐらい、70%を超えたはずなんですよ。小学校の学校司書の配置率っていうのは。札幌市の小学校は開放司書っていうボランティアに頼って、きちんとした学校司書がない状態ですので、かなり全国的には数字としては取り残されてしまっている状態です。なので、この状態が今後一応是正されるような方向で話が、図書館と教育委員会は全然違う部署なので分からないかとは思いますが、されているのかというのが非常にお伺いしたいところです。昨年度末の各開放図書館からのアンケートでも半数以上が担い手不足を訴えていて、札幌方式もう古いんじゃないか、っていう声も実際に上がっていて、私も調べましたらもう10年ぐらい前からもうずっとそういったことをおっしゃってる開放司書の方もいらっやって、そのあたりどうなのかなと思っております。

図書館協議会の一番最初の会議が何かで言ったんですけども、アンケートを一度取っていただきたいと、何かしらの調査をいれていただきたいと思っていて、開放図書館のある学校はない学校に比べて確実に図書館の利用者が多くて、そして図書館の重要な機能であるレファレンスにも親しみがあって、潜在的な札幌市の図書館利用者として確実に育っている数で、それは調査の統制はちゃんと数字に出るはずで、数字に出れば役所の担当部署の皆さんも満足できるような結果が出るはずですので、成果として何らかの研究を、札幌市の図書館みたいなこの2023年、こういうまとめの本でも研究していただければいいなと思うのは、今がピークなんじゃないかと思うんです。開放図書館のもう担い手がないので、この先どんどん減って、活動自体が縮小していってしまうと、もうこれ以上いい数字が出せないかもしれないなと思っていて、今この状態で札幌方式の成果をきちんと数字として残してほしいという希望があります。それは札幌市さんにとってもそんなに悪い話ではないと思うんですけど。ごめんなさい。ちょっと話があちこちいってしまったんですけど

ども、中心としては小学校の学校司書の配置について今後検討されているのかということをお聞きしたかったです。すみません、よろしくお願いします。

●事務局（筒井調整担当課長） ご承知の通り、担当部署は学校教育部ということになりますけれども、方向性としては中学校に以前学校司書を配置した流れで、小学校への配置についても検討していくというふうに聞いております。ただやはり、いつですとか、いつまでっていうところに関してはまだ出てないところかなというふうに思います。現状につきましては、1つ学校も見させていただきまして、ほとんどの方が在校生の親御さんがやっていたという現状も見ましたし、ただその中で夏休みの図書を借りていく子どもたちが非常に生き生きと本を選んでいるというようなところも見ました。ですので、非常に大変大切な取組かなと思っております。

●新田会長 よろしいですか。

時間の関係もありますので、とりあえず議題の案に関してはこれで終わるということにいたしまして、次は議題の2、令和4年度来館者アンケートについて、まず事務局の方から説明をお願いします。

●事務局（上田企画担当係長） 令和4年度来館者アンケート集計結果、中央図書館、地区図書館、えほん図書館、図書・情報館分について説明いたします。資料3の方をご覧ください。

それでは、表紙をめくって1ページをご覧ください。来館者アンケートにつきましては、図書館サービスの質の向上を目的に、平成23年度から毎年実施しております。令和4年度につきましては、令和4年10月に新琴似図書館では改修工事があったため12月に実施いたしました。他の館は10月に各館2週間程度で実施しております。なお、いわゆる条例館である12館とは別に、区民センター、地区センター、生涯学習センターの29の図書室でもアンケートを実施しており、その結果については図書館のホームページに掲載しております。

下の方ですね。5番のアンケート回収結果のところですけども、条例館12館で2,380人に配布し、2,039人から回答を得ました。回収率は85.7%で、昨年度の90.6%より、4.9ポイント下落いたしました。回収率の推移についてですけども、資料の一番最後のページ、71ページ別紙5なんですけども、そちらにアンケートの回収率の推移を表とグラフにいたしました。ちょっと説明は割愛させていただきます。

資料の2ページをご覧ください。アンケート回答者の年齢構成を掲載しております。中央図書館と各地区図書館の年齢構成には同じような傾向が見られますが、専門性に特化した図書・情報館とえほん図書館は、他の館とは明確な違いが見られます。えほん図書館は、30代から40代の子育て世代がほとんど占めており、来館者は子育て中の親と子の組み合わせ

せが多いものと推察されます。図書・情報館については、20代、40代、50代、30代の順に多く、コンセプト通りビジネスパーソンが多く来館していることが読み取れます。

4ページをお開きください。4ページですね。アンケート回答者の住んでいる区の内訳が掲載されております。この表から中央図書館、各地区図書館だけでなく、えほん図書館も所在区もしくは隣接する区の利用者が大半を占めることが読み取れます。図書・情報館については、中央区民の利用が25%と多いですが、他の図書館に比べて他区の利用者が明確に多いことが読み取れます。

5ページをご覧ください。アンケート回答者の職業構成を掲載しております。中央図書館と地区図書館については同じような傾向が見られており。専業主婦と無職の方の合計が約5割程度を占めております。えほん図書館が稼働している人と専業主婦がほとんどを占めております。図書・情報館は学生が14%ほどいますが、稼働している人が大半で、自営業・自由業が11%と他館より多いのが特徴です。

6ページ以降についてですが、利用者の全体的な満足度の推移を掲載しております。6ページ1番の全館の合計ですが、令和4年度における全館の満足度は93.8%と令和3年度より0.4ポイント増加しております。読書・図書館プラン2022における目標は93%とされており、令和3年度時点で既に達成されておりますが、今後は下げない努力が必要とされてきます。また、各館の満足度を見ますと、前の年度より満足度を下げている図書館がありますが、全体的な満足度については上昇傾向にあることは見て取れます。

9ページについては、9ページの7番のところですね。年代別の満足度が掲載されております。全体的には20代から40代の現役世代がやや満足度が高い傾向が見られます。今後、全体的な満足度を高めていくためには、10代以下や高齢者の方の満足度を上げることが求められます。特に10代以下については5ポイント以上下落していることから改善が必要です。

10ページをご覧ください。調査項目ごとの満足度を集計したものを掲載しております。1番本の種類・数、6番図書館内の設備、8番図書館職員の対応、9番全体的な満足度については満足度が8割を超えている一方、10番の電子書籍の種類・数についての満足度が3割を下回っています。1番本の種類・数については、えほん図書館で98.7%と100%近い満足度になっており、中央館と図書・情報館の満足度も85%となっておりますが、地区図書館全体では73.7%と若干低くなっております。3番の行事充実に関してはえほん図書館で71.1%となっておりますが、他の館は50%を超えるか下回っているような状況です。

12ページをご覧ください。これは先ほど説明しました調査項目ごとの集計から、わからないと無回答と書いたものを除いたものです。これを見ますと、1番の本の種類・数、10番の電子図書の種類・数以外は各館で8割近くの満足度となっております。3番の行事の充実路頭につきましても、わからない・無回答を除くと、8割を超える満足度となっております。イベントなどを意識して来館されている方の満足度は高いものと推察されます。電子書籍の種類数についても、わからない・無回答を除きますと満足度は大きく上昇しており

ます。このことから、来館者への電子図書館の周知が十分なされていない可能性があるといえます。

13ページをご覧ください。各項目の満足度の推移を記載しております。コロナ禍の影響があるのですが、休館が続いた令和元年度にいくつかの項目で満足度が下がりましたが、巣ごもり需要から図書館のニーズが見直されたのか、令和2年度から4年度にかけて上昇傾向になっています。この満足度を下げないようアフターコロナとなった今年度以降の取組が重要となってきます。

16ページ以降につきましては、アンケートに寄せられた意見要望について記載されています。各館とも特定のジャンルの蔵書の増、施設環境の改善、図書館サービスの改善についての意見が寄せられています。

来館者アンケートの説明については以上になりますが、アンケートの結果、寄せられたご意見を参考に出版サービスの向上に取り組んでまいります。また、アンケート結果についてはホームページで公開するとともに、各館にも掲示しております。以上です。

●新田会長 はい、ありがとうございます。それでは今の説明に関しまして、何かご意見、ご質問ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

●斎藤委員 斎藤です。13ページの右上の本の探し方、調べものの相談というところで、図書・情報館の、今回少し上がってるんですけど、全体的に満足している傾向が低い、他のところと比べて格段に低いという結果が出てきています。これはちょっと気になるんですけども。私としては図書・情報館の場合、直接貸し出しをしないので、職員の方とのやりとりはほとんど通常ないというところがあるので、その点で職員とのやり取りがない分だけ、低いというふうに捉えることができるんじゃないかなと思ったんです。もしそちらの方で接遇っていうか、調べもの相談への満足感が低い理由を把握しているものがあるようでしたら教えてほしいなと思いました。

●新田会長 はい、ありがとうございます。どうでしょうか。

●事務局（佐々木図書・情報館長） 図書・情報館の館長の佐々木と申します。今の調べ物のところで満足度が他のところに比べて低いんじゃないかというところでございしましたが、やはり1つの要因としては今委員がおっしゃっていたように、利用者様はご自身で本を持って行って座席とかの予約をして、なかなか真ん中にレファレンスのカウンターがあるんですけど、職員との会話とか、そういったものがないというところが1つの要因かなとは思っております。ただ、こちらの方の、わからないというところを除くと満足度として上がってきていますので、もっと我々が課題解決型図書館に向けて、皆さんの調べもののお手伝いをしてるんだよってというところの周知ですね。そういった広報の面で足りてい

ないのかなというところは考えておりますので、実際に来られた方ですとか、ホームページを通してもっとそういった、我々の方ではお手伝いができますよというところのPR、そういったものを積極的にやっていくべきじゃないかなというふうに課題として認識しております。

●新田会長 はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

先ほどから、時々地区図書館の話題が出てますけれども、このアンケートを見ても本の種類とか数に関しては、中央図書館とか、えほん、図書・情報館と比べて、全体的に地区図書館の満足度が低いっていうのは、これは否めないところであるわけですよ。それでちょっとお伺いしたいのは、資料費の全体額と、それから中央図書館と地区図書館のそれぞれの資料費の額っていうのは公表されていますか。

●事務局（筒井調整担当課長） 札幌市の図書館2023の58ページをご覧くださいと、資料費の中で、図書費、中央図書館、地区図書館、えほん図書館、図書・情報館ということと、それぞれの額を掲載しております。

●新田会長 はい、ありがとうございます。これは地区図書館全体でということですよ。

●事務局（筒井調整担当課長） はい、全館分ということになります。

●新田会長 しょうがないよねっていうんじゃなくて、この額に見合った満足度になってますよね、ってことだよ。はい。

他にいかがでしょうか。

●原田委員 原田です。12ページの行事の充実度で、中央図書館が高くて良かったなと改めて思ったんですけど、いつも中央図書館の展示ですとか、非常に楽しませていただいております。

先ほどおっしゃってた図書・情報館は、職員とのやり取りが達成しにくいから、相談しやすさとか、ちょっと低い、そういうところがあるのかなっていう話がありましたけど、さっきの資料にちょっとわかりやすいのがあったんですけど、資料1-1の9ページの地域イベントへの参加検討というところで、カルチャーライトに昨中央図書館参加されましたよね。これ、私も親子で行って、目の前でこの最後の一人ですみたいな感じで参加できずに、非常に悔しい思いをしたので、次回はちょっともうちょっと人数増やしていただけたら。結構早い時間に締め切ったかと思うんですね、これ。思ったんですけども。ただ、その後普通に図書館を利用して、このイベントに参加されている方ですとか、イベントに図書館のもちろん職員の方々も参加されていて、皆さん非常になんかいい笑顔

でやってたんですよね。このイベントは。すごく参加している方も、イベントしている方も、もちろん準備はすごく大変だったと思うんです。日頃の業務の中で、こういったちょっと特別なイベントをやるっていうのは。ただ、そういうすごく雰囲気はよくなつた、図書館ですごく楽しい雰囲気になつてたんですよね。このイベントの日。そういったところで何かしらそういったイベントがあつて、職員とのやり取りがあると、きっと親しみが持てて話しかけやすくなって、レファレンスも利用しやすくなるとか、そういった良い循環が生まれるのではないかなと思ったので。ちよつとごめんなさい。思い出話というか、見ているだけでも楽しかったですというお話でした。すみません、失礼します。

●新田会長 他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。

●木村委員 木村です。今のアンケートの中で、1点だけちょっと引かかったなというところは、私が学校に勤務している関係もあるんですけども、9ページの7番の満足度のところで、10代以下が5ポイント以上下がっているところなんです。例えば令和4年度と令和5年度でいうと、いろいろなことが戻ってきている、コロナの影響が、というところがあるので、10代以下の幅があまりにも広いので、一体このアンケートにどういう年代の人たちが答えているのかということも関係しているのかということもあり、なかなか見解が難しいのかとは思いますが、今の段階で何か考えられることがあるのであれば、教えていただけたらと思いました。

●事務局（筒井調整担当課長） まず10代以下というのは分母が若干少ないというところもありまして、振れ幅が大きくなりやすいのかなというところがございまして、なぜ下がったのかというところの見解は持っておりません。同様の傾向が続くですとか、自由記載欄に何か書かれるですとか、そういったところがあれば検討していきたいなと思います。

●新田会長 生のデータでは、10代以下も3区分されているんでしょうか。12歳以下と13、15と16から18っていう。その辺を見てみれば、少しまた見え方が違う、違うことが見えてるかもしれないんだけども。

●事務局（筒井調整担当課長） そうですね。その通りかと思います。わかりました。さらに分析してみたいと思います。ありがとうございます。

●新田会長 さらにどうでしょうか。この辺の満足度を上げていかないと、目標に達しないというようなこともありましたけれども。よろしいでしょうか。とりあえず。はい、ありがとうございます。

これで本日予定されておりました議題については終了ですけれども、何か他に事務局の

方から報告等ございますでしょうか。

●事務局（浅野調整担当部長）

秋元市長の選挙公約で「マンガやアニメなどポップカルチャーをまちづくりに活用する取組」を進めるということが挙げられておりまして、その流れで今年度、まちづくり政策局にプロジェクト担当部が立ち上げられたところでございます。

昨年度、まちづくり基礎調査のひとつとして、「図書（マンガ）を核としたライブラリー、ミュージアム及びビジネスの展開に関する可能性調査」が行われましたので、本日はその結果につきまして、概略をご説明いたします。

事業の進め方としましては、マンガという文化資源を活用し、北海道の文化や魅力を発信するミュージアムに加え、生活に寄り添い、課題解決を支援するライブラリー、そして、新たな価値の創出と産業を振興するビジネス、この3つを連携させて進めていくということが、札幌ならではの方向性であろうという考えが述べられております。

さらに、有志の方々の動きとして、北海道マンガミュージアム構想というものが2年前に発表されています。代表は漫画家の大和和紀さん、副代表は同じく山岸涼子さん。おふたりとも札幌で若き日を過ごされておりまして、札幌ゆかりの漫画家さんたちです。その他にもゴールデンカムイの野田サトルさんやいくえみ凌さん、ヤマザキマリさんなどが発起人や賛同者に名を連ねておりまして、こうした動きと連携することで漫画家の協力を得られることが札幌市のアドバンテージと考えております。

マンガの持つさまざまな可能性については、メディアで皆さんご覧になっていると思います。例えばアニメの聖地巡礼であれば観光客の増、地域ゆかりのマンガの紹介では街の魅力発信などが実績として挙げられています。また、ルーブル美術館や大英博物館でもマンガの展示が行われるなど、海外でわが国の文化として評価を受けております。

北海道、札幌はもともと観光で人気のある場ではあるのですが、食べ物や自然などのこれまで認識されてきた魅力に加え、見るべきコンテンツを増やしていくことも、観光の振興に有用であろうと考えております。

そのほかにも、産業振興や教育分野などでも効果が期待されておりますが、先進自治体においても収支が課題となっており、常に行政だけが運営することは難しいという課題もございます。

これに向けては、機運の醸成といいますか、マンガやこの事業に対する理解を、市民のみなさまはもちろんのこと、企業の方々の間にも広げていき、官民連携で事業を進めていく必要があると考えており、そのために、今年度、実証的事業を二つ予定しています。

今年の3月には、『あさきゆめみし』、『日出処の天子』の企画展を行う予定でございます。2月には白い恋人パークにおいて、雪まつりの時期に合わせてポップカルチャーの企画展示を行うことも予定しております。この企画展を通じ、市民の皆さまの期待、国内外の観光客のニーズなどを把握してまいります。



さらに中央図書館とも連携をいたしまして、「北海道とマンガのミライ」という所蔵マンガの展示を行うなかで、北海道在住のマンガ研究者、星槎道都大学の竹内先生にマンガが北海道の未来にどう影響を与えていくのか、っていうようなお話もしていただく予定でございます。

非常に早口でございましたが、去年行った調査の概要と今年度の予定を報告させていただきました。

●新田会長 いかがでしょうか今の。ちょっと1つ、クリエイターについてありましたけれども、私はマンガ家ってどうやってマンガ家になるのか知らないんですが、いわゆる育成組織っていうか、学校みたいなものも考えているっていうことですか。

●事務局（浅野調整担当部長） 民間のものは札幌にはいくつかございます。現時点では行政が自らそのような学校を作るのではなく、連携の中でお互いに効果を出していく、という考えでございます。

●新田会長 他にいかがでしょう。

●原田委員 スライドでちょっと生涯学習という文字が見えたので、そちらでコメントさせていただければと思うんですけど。札幌市の社会教育について考えて、社会教育委員会議に参加してた時にリーチしにくい層っていうのが、自治会、町内会とかに参加しない独身で、まちに暮らしている若い方たちは、まあ若くなくてもいいですけど、そういう層にリーチするのに、マンガっていうのは非常に有効かなと。生涯学習というのがあるので、そちらにも生かしていくっていうことでよろしいのかなと思っています。そういう方向で行くんだったらいいなと思いました。あと、この札幌市の図書館の予算を削らずに、どこから分捕っていただけるということであれば、何も文句はございませんというところですよ。

●事務局（浅野調整担当部長） ご意見、ありがとうございます。

●新田会長 さっきの予算のところの表を見ていても、確かに図書・情報館ができた時は純増だけでも、だんだん減ってきて、1つのパッケージの中に組み込まれるっていうのが、普通の予算の作り方だと思うんですね。ですから、最初の年は良くて、これもあるから全体的に減っていくよねっていうところは覚悟しておかないといけないような気がします。その方がいいよねって言ってんじゃないんですけども。

●事務局（浅野調整担当部長） 今までの実績からお話しします。新設された、えほん図

書館や図書・情報館は、それぞれ1つの小事業として予算建てされておりますので、中央図書館の方に組み入れて、予算額を落とすということにはなっておりません。

●新田会長 ただ、予算の額を見ればそう見えますよねっていうことを私は申し上げてるんだけど。

●事務局（浅野調整担当部長） 過去に札幌市予算全体に対して、シーリングがかかったことがございました。そのため、お感じになったような形に見えるかもしれませんが、実際は先ほど申し上げたとおりです。ただ、会長にご懸念いただいているご趣旨は大変わかっておりますので、資料費確保も頑張っていきたいと思います。

●新田会長 ぜひ頑張ってください。

●事務局（浅野調整担当部長） ありがとうございます。

●新田会長 いかがでしょうか。どうぞ。

●福田委員 北海学園大学の福田です。まだ具体的なことは決まってないと思いますが、作るとしたら、場所は人が集まるさっぽろ駅とか、大通駅周辺とかお考えでしょうかね。

●事務局（浅野調整担当部長） この事業の進め方につきましては、最初に施設建設ありきではなく、今年度の企画展など、実証的な取り組みを続けていく中で、いろんな方のご理解であったり、ご応援であったりとかをいただき、そういった中で多くの方が賛同していただいた時に、施設の検討に入ってまいりたいと思います。また、いろんな施設を見に行きましたけども、街中にあるパターン、それから郊外型にして少し面積を取るパターン、いろんなパターンございます。何が札幌にふさわしいのかをこれから考えていきます。

●福田委員 いつも気になってるのですけれど、札幌市の大通公園の端にある資料館ですね。あそこ見た目はクラシックな建物がよいのですが、公文書館に使わなかった理由は、暖房がちゃんと入らないとか、色々中の施設面に問題ありで、あれを何とか使えるようにしたら、立地はすごく良いと思うのです。外部がクラシックな感じで、内部がモダンなマンガミュージアムにするのがよいのではないのでしょうか。あと札幌市内はあまり観光名所がないですよね。時計台と北大キャンパスの散策と、道庁の赤煉瓦庁舎は今修理中です。来札した知人には開拓の村とか、北海道博物館を勧める以外に何もないのですよね。本当に。函館や小樽に比べると。

ですから、中心部にできたら、既存の建物を使うのだったら、札幌市資料館は悪くない

と思うんです。新しいガラス張りのどこにでもあるような建物ではあまり新鮮味がないです。どこのビジネスホテルですかという感じの建物ではないものにしてもらいたいです。ヨーロッパだと古い建物でリノベしてうまく使ってます。それもゴールに入れていただけたらと思います。現在の札幌市資料館の存在意義が私は全くわかりません。あのおおば比呂司さんの展示などは今誰が見るのでしょうか。入館者はどれだけいるのでしょうか。前のこの協議会で言いましたが、全く聞く耳をもたれなかったのです。個人的には、あの建物もったいないなと思います。意見だけは一応出しておきます。よろしくお願いします。

●事務局（浅野調整担当部長） ありがとうございます。まだ事業として立ち上げるというような熟度ではございませんので、本当に昨年の調査結果、それと今年の決まっている企画展について、情報提供をさせていただいたということで、よろしくお願いいたします。

●新田会長 ありがとうございます。これで用意された議題、それから説明に関しては以上でございます。最後に事務局の方から連絡等ございますか。

●事務局（中村運営企画課長） 次回以降の協議会につきまして、ご連絡させていただきます。次回以降の協議会ですけれども、また別途ご連絡をさせていただきますして、調整のうえ開催したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

●新田会長 大体の目途は。

●事務局（中村運営企画課長） 現在のところ、年内ぐらいに開催できればと考えておりますけれども、その辺も調整させていただければと考えております。

●福田委員 年末は皆さん、忙しいので、なるべく11月中とか、はっきりしてほしいです。仕事されてる方もそうだと思いますが、年末は師走ですから。なるべく避けていただきたい。

●事務局（中村運営企画課長） わかりました、なるべく早めに皆様にご連絡差し上げたいと思います。

●福田委員 道立図書館は11月から12月の日程のお伺いがもうきています。早めにしてもらわないとちょっと困ります。

●事務局（中村運営企画課長） はい、それではなるべく早めに調整をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

### 3. 閉 会

●新田会長 ありがとうございました。それでは、第3回の協議会を閉会といたします。  
どうもありがとうございました。

以 上